

念願の自宅ホールでの演奏会、ホームコンサート、サロンよりもっとフレンドリー、いつもより饒舌なピアニストのトーク。バッハの「平均律・・・第一巻 12番 プレリュード」、どう音を組み合わせるか、知的作業をさりげなく、シンプルなオープニング。素敵なソノリティ、細部までありのまま、ホール効果。親近感過剰な響き、どんなレンジで対応すべきか。慣れぬシチュエーションにウロタエ、いつもの心構えを失いがち。

モーツアルトの「ピアノソナタ11番」、堅実な繰り返し、誠実で真摯な取り組み、カッシリ確りトーン。気楽なスタンスはNO、跳ねコチャするトレンドを押さえ込み、心理的呪縛まで。4変奏のハッとさせる音の重ね合わせ、慎み深く再現、グールドさん的際立たせ方ナシ。3楽章のトルコ行進曲、アンコールで何度か。身近でディテールまで明白に、作品に優しく慈しむスガタ、新たな魅力を再発見。

ドビュッシーの作品3曲、比較的親しみ薄い単発モノ、全集なら最後の一枚に収録、良さを目の目を見せんとする。「夢」、フンワリとした柔らかさ、ファンタジー的甘美さ、消え入るまで確りと存在感。「ロマンチックなワルツ」、オリエンタル風のスペイン音楽の匂い、ラヴェルさんの作品にありそうなもの、いや唐突のなき展開はドビュッシーさんか。「ノクターン」、スタートは「暁の歌」、明暗の交錯、深い沈鬱な想いの引き摺り、「ピアノのために」の1曲に加えてもよさそう。

ショパンの「マズルカ」、作品7の2曲、元気ジルシのリズムの反復、癩性的アクセントはなし、この舞曲を初めて聴いた快い衝動を思い出す。作品63の2曲、哀愁と叙情、物静かな美しさ。「ノクターン2番」とリストの「コンソレーション3番」、好きな作品を弾き慣れたピアノで、思い通りに演奏できる喜びにあふれ。ホールにぴったりフィット、心地よい聴き易さ。(2017.4.25)

---

J.S.バッハ：平均律クラヴィーア集 第1巻から へ短調 BWV857 プレリュード

モーツアルト：ピアノソナタ 11番 イ長調 K.331「トルコ行進曲付き」

ドビュッシー：夢

ドビュッシー：ロマンチックなワルツ

ドビュッシー：ノクターン

ショパン：ノクターン 2番 変ホ長調 Op.9-2

ショパン：マズルカ 変ロ長調 Op.7-1、イ短調 Op.7-2

ショパン：マズルカ へ短調 Op.63-2、嬰ハ短調 Op.63-3

---

---

(アンコール)

リスト：コンソレーション 3番 G.172-3

---